

船舶事故調査報告書

令和4年1月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	令和3年4月8日 09時45分ごろ
発生場所	長崎県長崎市神楽島南東方沖 三重式見港式見防波堤灯台から真方位218°1,150m付近 (概位 北緯32°46.7' 東経129°46.8')
事故の概要	プレジャーボート勇喜丸は、漂流中、船尾管の冷却海水給水ゴムホースに破損を生じ、機関室に浸水した。
事故調査の経過	令和3年4月12日、主管調査官（長崎事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート 勇喜丸、3.8トン NS3-407326（漁船登録番号）、個人所有 第292-28415号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	船尾管の冷却海水給水ゴムホースに破損
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 西、風力 1、視界 良好 海象：波高 約0.5m
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、船長の家族1人を乗せ、神楽島南東方沖で漂流を始めた。</p> <p>船長は、釣りをしようとしていた時、機関室内から異音が聞こえたので確認したところ、機関室に浸水しているのを認めた。</p> <p>船長は、冷却海水取入口の元バルブ2カ所を閉め、バケツによる排水作業を行ったが、排水できる量が少ないので不安になり、海上保安庁に救助を要請した。</p> <p>船長は、本船が巡視艇にえい航されている間、可搬式の海水ポンプを探し出して機関室の排水作業を行った。</p> <p>船長は、三重式見港に到着した後、浸水の原因を調べたところ、船尾管の冷却海水給水ゴムホース（以下「本件ゴムホース」という。）が取付け口付近で破損し、外れていたことを認めて交換した。</p> <p>船長は、ウエスとして使用していたタオル（以下「本件ウエス」という。）がプロペラ軸接続部のカップリングに巻きついた状態を認め、巻き込まれた本件ウエスが本件ゴムホースに当たり、本件ゴムホース取付け口付近を破壊したのではないかと思った。</p>
分析	本船は、漂流中、本件ウエスがプロペラ軸接続部のカップリングに巻き込まれた際、巻き込まれた本件ウエスが本件ゴムホースに当たり、取付け口付近に破損を生じたことから、本件ゴムホースで送られ

	る海水が機関室に入り、浸水したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が漂流中、本件ウエスがプロペラ軸接続部のカップリングに巻き込まれた際、巻き込まれた本件ウエスが本件ゴムホースに当たり、取付け口付近に破損を生じたため、本件ゴムホースで送られる海水が機関室に入り、浸水したものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none">・ 機関室の回転部付近には、巻き込まれる恐れのあるものを置かないこと。・ 可搬式海水ポンプの保管場所を覚えておき、すぐに使用できるようにしておくこと。